

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や手術の記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテ記録や手術記録を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

ピオクタニンブルー水溶液 0.5%による殺菌、消毒、口内炎治療について

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院 形成外科

【研究責任者】 森 秀樹（形成外科 講師）

【研究代表者】 森 秀樹

【研究の目的】

怪我や手術後の傷の合併症として細菌感染があります。これに対して抗生物質を使用しますが、細菌が抗生物質に対して抵抗力をもち、抗生物質が効かなくなる場合があります。特にメチシリン耐性ブドウ球菌（MRSA）という細菌は感染力は弱いのですが、一度感染してしまうとコントロールが難しくなります。通常の消毒薬でも退治が難しいのですが、ピオクタニンという染色液がある程度効果があることがわかっています。この研究では皮膚の傷に細菌感染が起こった場合にピオクタニンを使用することで、細菌感染を抑えることが目的です。

【ピオクタニンブルーについて】

1 ピオクタニンブルー（塩化メチルロザリニン）はトリフェニルメタン色素の一種であり、染色液として汎用されていました。従来口腔内の消毒などに使用されてきましたが、国内では医薬品として市販されていないため、試薬のピオクタニンブルーを用いて院内製剤として作成しています。

【本治療法によって予期される効果および副作用】

患部の消毒・殺菌に使用します。使用方法は患部に適量を塗布します。眼球粘膜に対しては刺激があるため使用しません。この染色液は時間とともに自然に薄くなります。

【個人情報の取り扱い】

本研究は「個人情報保護法」(平成 17 年 4 月 1 日施行)および「疫学研究に関する倫理指針」(文部科学省・厚生労働省 平成 19 年 8 月 16 日改正)を遵守しています。情報は本登録のため新規作成した「日本形成外科学会疾患登録アプリケーション」で入力・暗号化、復号・集計されますが、高度の暗号化機能を有し、犯罪的行為等で情報メディアが第三者の手に渡っても内容解読は不可能です。

また、姓名、生年月日などの個人情報は登録情報に含まれず、研究対象者である患者さんが不利益を被ることはありません。

< 試料・情報の管理責任者 >

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-096-5350